

2019年 初春のご挨拶を申し上げます

平成最後の新年を迎えました。今年はどうのような年になるのだろうかと思ひ、考えてみました。

世界的には、環境問題とりわけ地球温暖化の進行は待ったなしですし、その結果自然災害の頻発にも今まで以上の備えが必要です。トランプさんを初めとしたナショナリズムやグローバリズムが生んだ格差が広がり、技術革新が社会を大きく変えています。

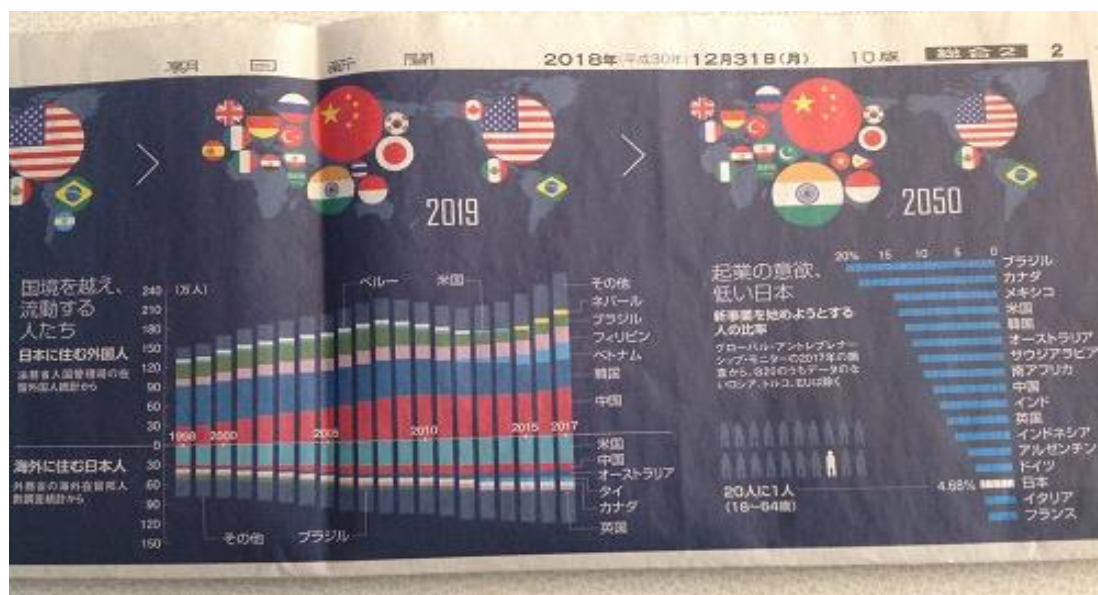
その中の日本はどうでしょうか。平成天皇のご退位を前に、政治・経済共に大きな社会的変動が起きませんようにと願うばかりです。

今一番問題なのは、少子・高齢化、人口減少に伴う社会状況の変化です。



朝日新聞（12/30～1/8）エイジングニッポンを引用しますと、この国のすべての人が直面するエイジングニッポン。平成の終わりに私たちの持続可能性を考えてみたい。

- (1) 人が島が村が老いる消える
～この国はどこに向かうのか～
- (2) やりたいこと海渡って実現
～沈みゆく船から流出する「頭脳」～





- (3) 個人の生き方社会の形左右 ～日本の分岐 AI が予測～
 - (4) 人間の知能を AI は超える ～仕事を奪うのか助けるのか～
 - (5) 定年退職後も仕事を続ける ～「心の支え」か「明日への不安」か～
 - (6) 「シェア生活」家もいない ～「右肩上がり」限界、次の生き方は～
 - (7) 家族のかたち一つじゃない ～伝統的価値観に生きづらさ～
 - (8) 「幸せ」自ら切りひらくには ～若者の挑戦する意欲引き出す教育～
 - (9) 減る人口、細る「公」の担い手 ～深刻な人手不足 自衛隊も地方議会も～
- この中で私が注目するのは (3) です。

平成が終る、格差と貧困、単身世帯の増加と孤立、国家には巨額の借金、いくつもの負の要因が日本社会をさいなんでいます。

「2050年日本は持続可能か」 AI 予測（日立製作所・日立京大ラボの人口知能 AI 技術を活用）では、10年以内に大きな分岐が来る。持続可能シナリオへ進むためには、国の政策に加えて「個人の生き方が分岐を左右する」。国家の分岐は国民の選択が寄り集まってできる。私たち一人ひとりの生き方が日本の行方を左右する。変わらないことがリスクだ。脱「昭和型」が求められる。



「都市集中型」に進めば地方は廃れ、人口が減る。「地方分散型」なら出生率や格差が改善し、幸福度も高い社会への道が広がる。

地方と都市のバランスが取れた「持続可能」なシナリオへ至るには、エネルギー自給や地域交通を整える政策面も欠かせない。「地方分散型の未来に向かうには、国レベルの政策変更が必要だが、それに先駆けて自ら変わろうとする若者たちが今現れているのではない

か」 (京都大学こころの未来研究センターの広井良典教授)

「都市」と「地方」が活力を与えあう「持続可能」な未来を作れるか？
これがキーポイントだそうです。

その為には一人ひとりが価値観や生き方を変え、多様性を重んじる必要があります。たとえば「伝統的な家族観」を重んじる議員や長老たちは、「結婚し、男が家を継ぎ、女の役割は家庭にこそある。」という考えです。家族の形は一つではない、多様な生き方があることを受け入れなければ。女性が働きながら子供を産む、未婚の母になる、離婚による母子家庭など、外れると視線も制度も冷たい。生きづらい現実、未だに男尊女卑です。女性の為の環境を整えるのではなく迷惑がって押しつける社会。一方では女性の活躍を政策に掲げているなど矛盾だらけです。少子化の問題です。でも一番問題なのは、社会(町)の寂れを感じていても「何も考えていない人が9割以上いる。」ことなのです。

エイジングニッポン 私たち一人ひとりが持続可能な社会に動きだそうではありませんか。

ホーモイの活動としては市民福祉講座「老後の人生設計～介護を受けながら生きる～」をテーマに昨年引き続き学び活動していきたいと思えます

「介護予防のためのサロン」「生野きらきら子ども食堂」それぞれ出来る事を出来ることからやって行きます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

